

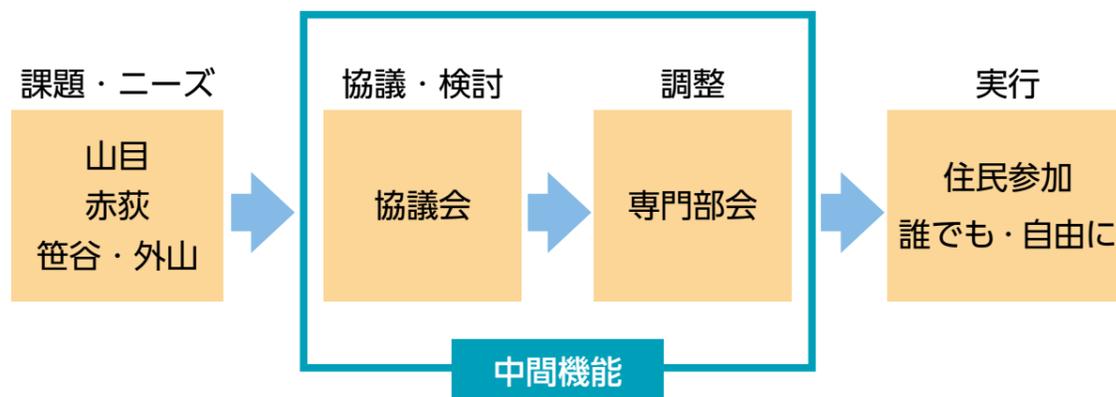
第2次計画期間において、協議会の仕組みの見直しを行ない、以下の3つの機能を高めます。

- ① 交流機能…専門部会間の連携を促し、課題に対して視野を広く考える
- ② 調整機能…すべてが協議会でできないため関係機関と連携する
- ③ 応援機能…民区、地域団体、個人を応援する（バックアップ体制の強化）

これらの機能を高めるためには、協議会において課題の把握を行ない、協議・検討する場が不可欠です。今後予期せぬ事案が発生する場合を想定し、常に課題を把握しその課題に対して協議するなど柔軟に対応できる協議会となるよう努めます。

計画の進め方

- ① 山目地区は、山目、赤荻、笹谷・外山の3地域から構成されるため、地域ごとの課題や地域ニーズを把握する仕組みを作る
- ② 把握した課題は、協議会で協議・検討し、課題解決の方向性を示し、専門部会で調整するなど関係機関に提言・提案する準備を行なう
- ③ 実行にあたって専門部会での取り組みは、興味や関心のある住民の参加を促し、関係者を増やしながら行動していく



第2次(令和7~16年度) 山目地区まちづくり計画 をお届けします

概要版

平成27年2月に「山目地区まちづくり協議会」を創立し、その翌年、「山目地区まちづくり計画」を策定してから10年目を迎えようとしており、令和7年度からは第2次計画がスタートします！

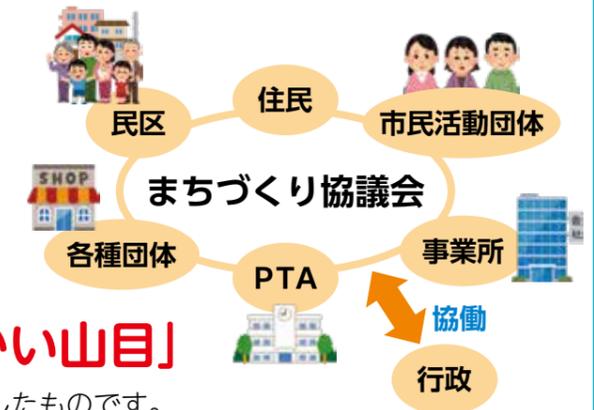
協議会では、第2次計画に向け令和4年度に策定委員会を立ち上げ、この10年を振り返りながら、今後のまちづくりの在り方を議論しました。

山目地区まちづくり協議会

① 山目地区まちづくり協議会はどんな組織？

住民が主体となり、地域課題の解決と地域づくりを行なうために山目地区の住民や団体などで組織された地域協働体です。

◎構成員は、行政区、区長会、防犯協、交安協、福祉推進協、民児協、体協、中央町商店会、青葉町商工振興会、PTA、消防団、農政推進員、保健推進員などの団体からできています。



② 山目地区まちづくり計画とは？

山目地区の将来の姿（スローガン）

「笑顔咲く、ちょっとおせっかい山目」

を実現するための目標や事業方針などを明らかにしたものです。

③ 第1次計画での主な取り組み（成果と課題）について

「やまのめ桜まつり」や「やまのめスポーツフェスティバル」などのイベントを通じて地域の交流や賑わい創出を行なったり、地域内の危険個所の点検やごみ問題など環境対策において山目地区全体で取り組むことにより、まちづくり協議会の存在感を出すことができました。

しかし、人口が多い山目地区でありながら、まちづくり協議会や民区の活動に関わる人が限られ、頼める人とやる人が固定化している課題は10年前から変わっていません。しかも、地域の課題も複雑で多様化し、連携・協働の必要性も高まっているのが現状です。



山目地区まちづくり協議会事務局

〒021-0031 一関市青葉二丁目4-5 ☎0191-21-2104 (山目市民センター内)

第2次(令和7~16年度) 山目地区まちづくり計画 概要版

山目地区は一関市内で一番人口が多い地区ですが、つながりやまとまりに欠けることもあります。そのため、山目地区の現状をしっかりと踏まえ、住民同士・行政区同士のつながりをより一層深め、互いに支え合う「やまのめ」を基本に据えることとします。

基本 構想

山目地区の将来の姿(スローガン)

「笑顔咲く、ちょっとおせっかい山目」
とし継続します

将来の姿を実現するための考え方

- ① 年代ごとに必要な「おせっかい」を考える
- ② オール山目と地区重視の両方で取り組み、人のつながりを作る
- ③ 子育てし易い、子どもにやさしいまちを目指す

基本 計画

まちづくりの目標

- ① みんなが楽しくつながるまち
- ② 誰もが安心して安全に暮らせるまち



事業 方針

- ① みんなが楽しくつながるいきいきとしたまちづくりを推進する
- ② 自然環境にやさしく魅力あるまちづくりを推進する
- ③ みんなが笑顔で元気に暮らせる思いやりのあるまちづくりを推進する
- ④ みんなが安心して安全に暮らせるまちづくりを推進する
- ⑤ 元気な心と体でいきいきと生活できるまちづくりを推進する

今、優先的に取り組みが必要な事項(策定委員会での主な意見・課題等より)

高齢化対策

- ・生活支援
- ・行政文書の取り扱い
- ・災害時の一人暮らしの高齢者支援



子ども対策

- ・民区PTAの限界……PTA活動は、すでに合同の動きがある
- ・子どもの体験機会の減少……経験不足=視野が狭い
- ・親世代の意識向上……親の都合で判断される傾向がある
- ・コミュニティスクールや学校部活動の地域部活動への移行など社会情勢の変化

地域を知らない住民の増加

- ・民区行事への参加意識の低下……参加する理由が分からない
- ・地域を知らないから、民区対抗など地域の看板を背負う意識がない
- ・自分、家族の命を守るため地域に参加する

地域運営対策

- ・民区の規模に差が出てきている
- ・民区運営が難しくなっている
- ・高齢化による回覧板拒否
- ・夏祭り、子ども神輿など一民区で難しいことが増えてきている
- ・民区、山目全体での交流の機会が少ない、あっても参加しない
- ・集合住宅住民との交流ができない……参加してこない



つながり対策

- ・回覧板以外の周知方法の模索……高齢者は紙、若者はインターネット
- ・女性活躍、女性グループによる吸引力の活用……女性が中心に立った方が良い
- ・住民の危機意識が低く、助け合いの意識が低い……自分の命を守るために、つながりが必要

今、取り組むべきものは何かを常に把握しながら進めてまいります。

